

カンタン クイック フロアの施工方法

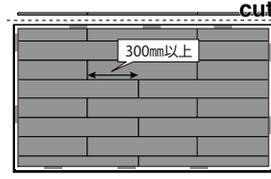
[施工方法 注意点]

- 10℃～25℃に保たれた室内の平滑な場所でフローリングを箱から取り出し、表面を上にして1～2日間程度保管し、現場環境に馴染ませてください。
 - 置き敷き工法で施工してください。(ノリやクギは使用しないでください。)
 - ホコリやゴミがないように施工前に下地の清掃をしてください。
 - パネルの凹み部分のゴミを取り除きながら施工してください。
 - 隣のパネルを軽く斜めに持ち上げることで短手がはめ込みやすくなります。
- ⚠️ クッションフロアなどの柔らかい既存床の上に重ねて施工しないでください。サネの破損や、隙間が生じる恐れがあります。**

施工方法

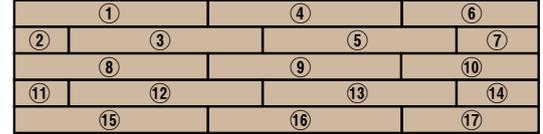
[施工手順]

1 割り付け



- 前列の短辺より300mm以上離して施工してください。
- 最終パネル幅調整後、一列目のパネルを切断してください。

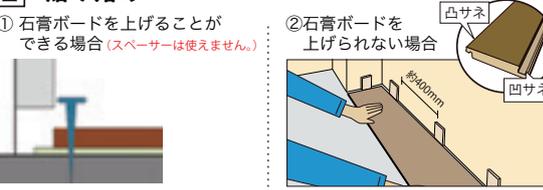
4 貼る順番



- フロアのはめ込み手順においては長辺から差し込みます。
- 長辺方向においては斜めにサネをはめ込んでいきます。
- 短辺方向においては同様にサネをトップダウンにしてはめ込みます。

※注意：下地が悪い場合、力任せに叩き込むとサネがぶつかって目違いが起こる場合があります。叩かずゆっくり差し込んでください。

2 貼り始め

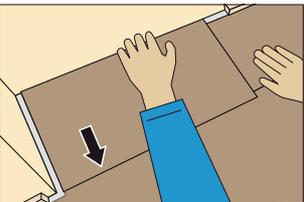


①石膏ボードを上げることが出来る場合(スペーサーは使えません。)

②石膏ボードを上げられない場合

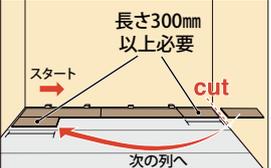
- 壁際等には最低5mm以上のクリアランス(調整幅)が必要となります。
- ※専用スペーサー(RWCL-14822)をご使用ください。
- 凸サネを壁側にし、左側から貼り始めます。
- 隣のパネルを軽く斜めに持ち上げることで短手がはめ込みやすくなります。

5 最終パネル列



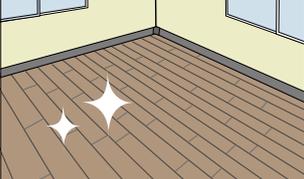
- 最終列のパネルは引き寄せながら貼ってください。
- 10m以上貼り伸ばすような場所では、T字型の見切り材を入れてください。
- パネルの幅が50mm以下になる場合はウレタン系の接着剤を使用してください。

3 パネルの切断



- 列の最後に切断したパネルを次列の最初に敷きます。
- 最初1～2列目はパネルが動きやすいので押さえながら施工してください。

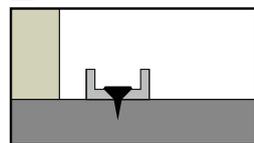
6 完成



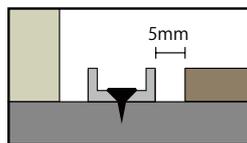
- スペーサーを取り外し、巾木、見切り材等を取り付けたら完成形です。

見切り材の取付方法

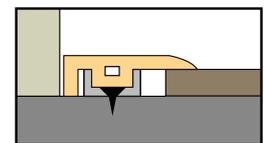
■ L字型見切



- 見切りベースをビスで取り付けます。

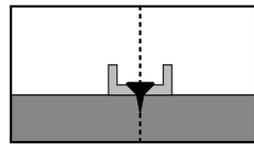


- 見切りベースの端から5mmのクリアランスを確保し、フローリングを貼ってください。

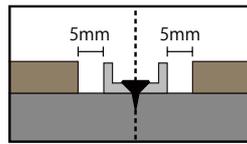


- 見切りキャップを上から強く押し込んで取り付けてください。

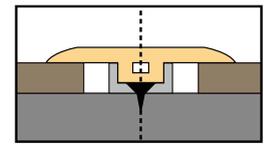
■ T字型見切



- 見切りベースを取り付けるセンターを決め、ビスで取り付けます。



- 見切りベースの端から10mmのクリアランスを確保し、フローリングを貼ってください。



- 見切りキャップを上から強く押し込んで取り付けてください。

メンテナンス



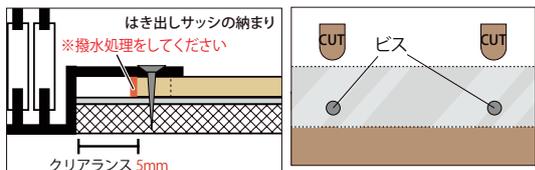
- ワックスは不要ですので掛けないでください。



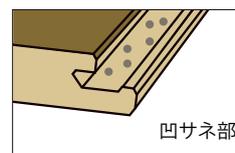
- 日常のメンテナンスは掃除機をかけ、ドライタイプのフローリングファイバーで清掃してください。
- 清掃時に水を直接使うような事は避けてください。かたく絞った雑巾や乾拭きをしてください。
- しつこい汚れは洗剤を少量使って落としてください。使用する場合は少量を使い、洗剤成分が残らないようにしてください。

施工上の注意点

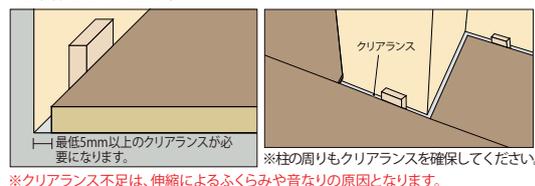
- ビスで固定するようなサッシやクローゼットの下枠は、固定するビスより少し大きめな下穴を作ってからとめてください。



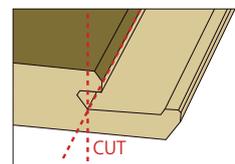
- 凹サネにゴミが入りやすく、そのまま施工すると隙間が開いてしまいます。凹み部分のゴミを取り除きながら施工してください。



- 本製品は湿気により伸縮するため、壁際には8mm以上のクリアランスを確保してください。



- 見切材の下になるパネルはカットしてから施工してください。



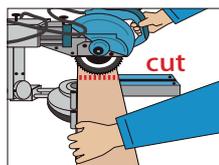
- 上パネルとの重ねシロが300mm以上になるように施工してください。



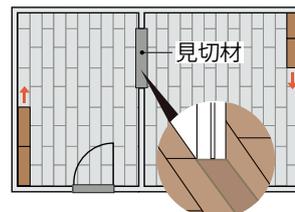
- 重量物が部屋の一部にある場合、L型見切材などによりクリアランスを設けるようにしてください。



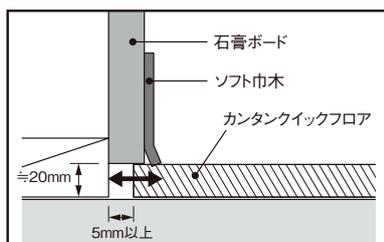
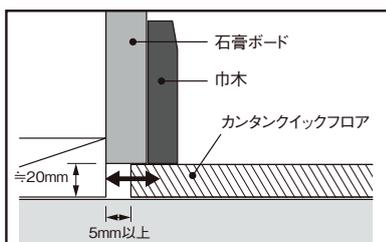
- パネルを切断するときは、裏側から切断してください。



- 見切材は最大8m以内の間隔で取り付けてください。ゆがみを防止するため、できる限り各部屋ごとに見切材を入れることをおすすめします。

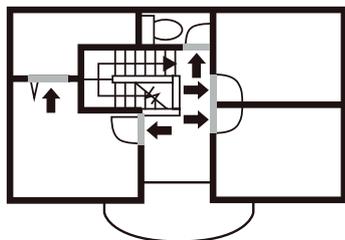


■壁面部 納まり① 新築 — フロア先行張りの場合



- ①壁下地から、5mm以上のクリアランスを開けてフロアの施工を開始してください。
- ②フロアを張った後に石膏ボードを張ってください。石膏ボードはフロア側に押し下げずに張って、フロアの伸縮を妨げない様にしてください。
- ③最後に、巾木を取り付けてください。

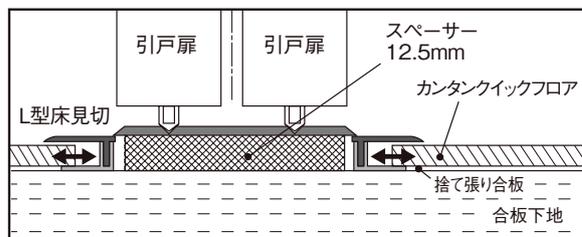
■見切りの取り付け位置について



一辺の最大スパンが10m以内としております。それを越える場合は必ず見切りを入れることをおすすめします。

※店舗・老健施設等、土足や車椅子使用の物件等は樹脂見切等は割れる可能性があるため、市販のステンレス等の見切を採用してください。

■L型床見切にてクリアランスを確保する場合



レールプレートの下部に12.5mmの合板をスペーサーとして捨て張りし、その両端にL型見切（プラスチック製）を取り付けます。L型床見切にてクリアランスを確保し、レールプレートを上からかぶせます。